

情報通信審議会 情報通信技術分科会 公共無線システム委員会  
技術的条件作業班 既存放送業務との検討アドホックグループ（第3回）議事要旨

1 日時

平成21年12月9日（水） 17時00分～18時00分

2 場所

総務省11階 1101会議室

3 出席者(敬称略)

(1) 構成員

大堂 雅之（情報通信研究機構）（グループリーダー）、小野 光洋（富士通）（代理：西土井 健）、片柳 幸夫（日本テレビ放送網）、加藤 数衛（日立国際電気）、川島 修（エフエム東京）、川島 徳之（フジテレビジョン）、志賀 康男（警察庁）、清水 隆司（電波産業会）、菅並 秀樹（日本放送協会）、高田 仁（日本民間放送連盟）、竹内 嘉彦（日本無線）、成澤 昭彦（パナソニック）、深澤 知巳（TBSテレビ）、三浦 洋（ニッポン放送）、村上 信高（TBSラジオ&コミュニケーションズ）、柳内 洋一（日本電気）、山崎 高日子（三菱電機）、吉野 洋雄（テレビ朝日）、吉本 博（テレビ東京）、渡辺 信一（文化放送）、渡辺 知尚（総務省消防庁）

(2) 事務局

新田 隆夫（重要無線室長）、根本 朋生（重要無線室課長補佐）、林 義也（基幹通信課課長補佐）

4 議事

(1) 前回資料の訂正について

参考資料1に基づき、菅並構成員から説明が行われた。

主な質疑については以下のとおり。

竹内構成員 基地局の利得 10.2dBi について、オムニアンテナであると書かれているが、指向性のあるものの誤りではないか。

菅並構成員 持ち帰って確認する。

(2) 既存放送業務との共用検討について

資料 2028-AHG-3-2 に基づき、事務局から説明が行われた。

主な質疑については以下のとおり。

菅並構成員 p.22 の BS、TS とあるのは、それぞれが何であるのか説明を補足してほしい。

事務局 BS がヘリカル、TS が TEM 誘電体のグラフに対応しているので、

その旨追記する。

菅並構成員 p. 14, 15 の数式に基づき計算する際、 $f$  はどの周波数を使用しているのか。

竹内構成員  $f$  は 170MHz で計算している。

事務局 所要改善量を達成するための方策として、地理的な離隔、空中線（指向性）の特性やフィルタによる減衰以外に何かあればお教えいただきたい。

竹内構成員 160MHz 帯の無線システムに対してはキャリアセンス機能を用いることで、干渉のおそれがあるとき等には運用しないとすることが可能ではないか。

大堂GL 運用しないとまでいなくても出力制御の可能性もあり得る。

片柳構成員 たとえば、APC（自動送信出力制御）によっても干渉が低減される可能性があるか。

大堂GL 十分、考えられる。

### (3) その他

前回の議事要旨案については、会議の間では特段の意見は出なかった。

次回の日程については 16、17 日のいずれかで調整し、連絡することとなった。